



Hamlin Fistula Welfare and Research Trust

Amanuel.b@hamlinFistula.org

Tel +251 113 71 65 44

Fax +251 11 3 71 28 66

# アディスアベバ フィスチュラホスピタルより



” 私がもう一度健康になれるよう、助けてください。  
私はもう高齢ですから、子供を生むことがもう出来ないことはわかっていますが、もし、助けてくだされば、この50年間の苦しみから救ってくださったことに対して、神にお礼を言うことが出来ます。皆と同じように、モスクに行くことを許され、お祈りがもう一度したいのです。もう一度、掃除婦として、働きたいのです。”

今年も、病院から、メリークリスマス！

いつも、皆さんが送ってくださる寄付に対し、心より御礼申し上げます。

12月は、私たちが、神から授かる多くのものに対する喜びを分かち合う月です。このお便りでは、最近になって、2008年5月に開院したハラール・クリニックで治療を受けることになった、ある女性のお話をさせていただきます。皆様を送ってくださるご支援は、こうした女性に対する無料の治療を可能にします。そして、彼女たちは、そのことで、「手を差し伸べてくれる友人を得るに値する、自分は、そういう、価値のある人間なのだ」ということを、認識できるのです。

写真の女性は、Hawa【ハワ】です。ハワは、この50年間、産科フィスチュラに悩んできました。

これまで、私たちの病院がある首都アディスアベバ市へ行くための交通費や、家族の援助が得られなかったのです。当病院の院長であるハムリン先生らは、1960年頃から、患者さんたちに対する治療をしていましたから、もし、もっと前に、ハワが、首都で、治療を受けることが出来ていれば、自分の赤ちゃんを、胸に抱けていたかもしれません。そうすれば、今頃は、孫に囲まれていたかもしれないのに、、、自分の家を持ち、年長の女性として、村の中で、尊敬を集める存在であれたかも、しれません。

現実には、ハワは、アディスアベバ行き交通費である、1米ドル未満のお金が、この間、ずっと用意できなかったのです。あるいは、誰でもいいから、彼女を、首都に連れてきてくれる人にも、めぐり合えませんでした。

最近になって、ハワは、ようやく、当院のハラールクリニックで、治療を受けた患者さんの手引きで、発病から50年たって、ハラールクリニックに来院することが出来ました。2008年5月に開設したハラールクリニックは、病院本院がある首都アディスアベバに比べると、彼女の村のずっと近くにあるのです。

私たちが、ハワを助けることを、可能にしてくださるのは、皆様のご支援です。ありがとう。

メリークリスマス。そして、ハッピーニューイヤー！

アディスアベバ・フィスチュラホスピタル広報担当官ベセル・アマニュエルより

意訳：ハムリンフィスチュラジャパン代表中山道子

201-0014 東京都狛江市東和泉1-23-13

有限会社マリポーサ気付 ハムリンフィスチュラジャパン

<http://www.fistula-japan.org>

ご寄付は：**フィスチュラジャパン 郵便振替 00150-9-630504** へ

ハワのような女性は、総費用5万円で、治療が可能です。